

業 種	航空
取組分野	事故、ヒヤリ・ハット情報の収集・活用
テーマ	リスク管理手法を活用した不安全事故の再発防止・未然防止
取組の狙い	リスク管理手法を用いて、不安全事故の再発防止・未然防止活動をより効果的に推進する。
具体的内容	<p>全日本空輸(株)(以下、「ANA」という。)グループでは、リスク管理手法による不安全事故の再発防止・未然防止のための取組みを推進している。具体的な手法は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> ANA グループの各航空会社*運航部門、客室部門、整備部門、オペレーション部門等の各生産部門において発生した不安全事故を、その影響の大きさと発生頻度に応じて各生産部門の有資格者(グループ内のリスクマネジメント研修**を受講、修了者(約[50]人))がレベルAからDまでの4段階で対策を講じるための重要度を決定し、グループ内のリスクマネジメント・データベースに入力。 一方、グループ全体の安全確保を横断的に担当するグループ総合安全推進室に於いても、データベースに入力された不安全事故について、同様に評価を行い、これら二つの評価をグループ全体で行う運航リスク・マネジメント会議に諮っている。この会議等に於いては、不安全事故に至る様々な要因の連鎖関係、根本的な原因の究明に向けた検討がなされるとともに、是正措置の検討も行っている。 <p>その結果を、各社の委員などで構成される ANA グループ総合安全推進委員会が審議、実行を決定。</p> <ol style="list-style-type: none"> なお、ANA グループでは、従来から、グループ航空会社毎に安全管理システムを構築しているが、グループ企業間で様々な業務委託(整備業務、陸上ハンドリング業務等)が行われている実態を踏まえ、単なる業務委託管理にとどまらず、各社の経験をグループ内で生かしながら、総合的な視点でリスク管理を実施していく為、2008年度からはグループ横断的な体制で活動を展開している。
取組の効果	<ol style="list-style-type: none"> ① リスク管理評価手法を用いることにより、不安全事故の重要度に応じた効率的な対策の策定が可能となる。 ② 社内で資格を有する者が重要度評価を行うことから、評価結果の平準化が図られる。 ③ 運航、整備等の専門知識豊富な生産部門による重要度評価に加え、横断的安全推進部門による評価の実施により、より広い視点で

	<p>検討が行われる。</p> <p>④ グループ全体で横断的なリスク管理を行うことにより、委託業務も含め、各企業が総合的な視点で安全を考えることが可能となる。</p>
事業者名	<p>全日本空輸(株) グループ総合安全推進室グループ安全推進部 (連絡先: 電話 03-5757-5060)</p>

* : ANA、(株)エアージャパン、(株)エアーニッポン、(株)エアーネクスト、
 エアーセントラル(株)、(株)ANA&JP エクスプレス 他2社

** : リスクマネジメント手法、他部門の事例も含む全社的なケーススタディーの実施 等